

30【P2】I-340

ソバ果皮中の抗菌活性化合物

○趙正容^{1,2}, 川添和義¹, 高石喜久¹, 文齊鶴², 朴根亨²(¹徳島大薬,²全南大食品工学)

【目的】食品の副産物活用研究の一環として、ソバ(*Fagopyrum esculentum* Mönch, Polygonaceae)果皮に含まれる抗菌活性物質の検索を行った。ソバ果皮は外部のいろいろな因子から物理的、化学的、生物学的な防御作用により、種子内部を保護していると考えられている。その中で化学的防御作用を担っていると考えられる3種の新規抗菌活性物質を単離し、これらの化学構造を明らかにしたので報告する。

【実験・結果】ソバ果皮(15 kg)をヘキサン、酢酸エチル、メタノールで順次抽出し、それぞれの画分について *Staphylococcus aureus* 及び *Escherichia coli* による抗菌活性を検定した結果、メタノール抽出物に抗菌活性を示した。そこで、メタノール抽出物を酸性条件下で酢酸エチルと分配したところ、得られた酢酸エチル可溶画分が抗菌活性を示したことから、本画分を各種カラムクロマトグラフィーで分離・精製することにより、3種の新規抗菌活性化合物を単離した。HRFABMS 及び NMR 解析により、化合物 **1** と **2** は2位幾何異性体である 6,7-dihydroxy-3,7-dimethyl-octa-2,4-dienoic acid、化合物 **3** は 4,7-dihydroxy-3,7-dimethyl-octa-2,5-dienoic acid と決定された。

